

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月29日
- 事業名 : 飛騨コミュニティ財団（仮称）設立事業
- 資金分配団体 : 一般社団法人全国コミュニティ財団協会
- 実行団体 : 特定非営利活動法人まちづくりスポット

1 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
飛騨地域内の個人・法人からの継続寄付者年75万円の受領を達成している。	1 寄付受領金額	1 個人:45万円（1口3,000円×150名） 2 法人:30万円（1口5,000円×60社）	2024年3月末	1 個人:2,050円 2 法人:0円	2
飛騨地域内法人からの冠基金の設置3件300万円を達成している。	1 設置件数 2 設置金額	1 冠基金:3件 2 基金設置額:各100万円	2024年3月末	1 冠基金:0件 2 基金設置額:各100万円	2
飛騨地域外の個人・法人からの継続寄付者年25万円の受領を達成している。	1 寄付受領金額	1 個人:15万円（1口3,000円×50名） 2 法人:10万円（1口5,000円×20社）	2024年3月末	1 個人:0円 2 法人:0円	2
経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援の基金を立ち上げ達成を支援できている。	1 寄付受領金額	1 300万円	2024年3月末	1 総額59,858円	2
地域の働く場づくりの支援の基金を立ち上げ達成を支援できて	1 寄付受領金額	1 300万円	2024年3月末	1 0円	2

いる。					
飛騨コミュニティ財団（仮称）がESG投資の受け皿となっている。	1 社会的投資受領金額	1 500万円	2024年3月末	1 0円	3
地域金融機関と連携したクラウドファンディングを活用し、観光関連等の新サービス支援を達成できている。	1 その他（クラウドファンディング）	1 500万円	2024年3月末	1 0円	2
地域のスキマとなる課題を明示した白書発行のためクラウドファンディングを活用した支援者が集まり、発行されている。	1 支援者数 2 発行部数	1 130人 2 1,000部	2024年3月末	1 143人 2 0部（10月中発行予定）	1
地域のスキマとなる課題を明示した白書を用いた勉強会やタウンミーティング等を開催し、コミュニティ財団に関心あるキーパーソンを発掘できている。	1 開催数 2 参加者数	1 20回 2 400人	2024年3月末	1 10回 2 244人	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
✓ オンラインツールの活用。 ✓ 勉強会実施の際も対面とオンラインを併用したハイブリッド開催とし、3密を回避した。

③ 広報(※任意)

1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

- ✓ 新聞 (中日新聞・岐阜新聞) 8件
- ✓ 市民時報 5件
- ✓ フリーペーパー (BLESS・SARUBOBO) 3件

2.広報制作物等

- ✓ フードバンク基金 チラシ
- ✓ フードバンクファンドレイジング チラシ
- ✓ 白書製作クラウドファンディング チラシ
- ✓ スキマ研究会 各回チラシ

3.報告書等

なし

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価全体の進行管理／評価報告作成	田辺 友也	専務理事・事務局長（事業責任者）
内部	文献調査／関係者ヒアリング	本間 あかり	オフィスマネージャー・コーディネーター
内部	文献調査／関係者ヒアリング	野中 小鈴	コーディネーター
外部	中間評価に関する専門的知見からのアドバイス提供／研修実施	古里 圭史	グラスルーツアカウンティングファーム 代表
外部	文献調査／関係者ヒアリング方法のアドバイス提供	木村 真樹	合同会社めぐる 代表

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
市民	1 コミュニティ財団立ち上げ賛同名簿	1 名簿：1,000人	2024年3月末	これまで実施してきた賛同者を増やすための取り組みとして毎月実施してきた「ひだのスキマ研究会」では、延べ244名が参加した。「飛騨地域の地域課題について、自分になにができるか」を参加者にアンケートで回答をもらった。回答率は26%と全体の4分の1ほどだが、スキマの当事者という自覚をもった参加者が多い企画ほど回答率が高い傾向にあり、「次回はこんなテーマで話したい」「この話が聞いて今やっていることに自信が持てた」など内容の濃い回答が寄せられている。
市民	1 市民全体のコミュニティ財団の周知度	1 市民全体コミュニティ財団の周知度：10%（調査結果なし）	2024年3月末	

				<p>少しずつではあるが、多様なテーマで実施することにより賛同者となるキーパーソンとの繋がりも増えつつある。この企画を通して「課題解決に向けた財源の確保」について、スキマ案内人を中心に「自分たちだけでは限界がある」「地域通貨をうまく活用できないか」「こういう活動（公益性の高い活動）の運営やお金の戦略を話し合える場もほしい」という意見が集まっている。</p>
企業・団体	<p>1 地域課題に取り組む事業を NPO 等との協働を行うまたは自ら実施する企業数</p>	<p>1 地域課題に取り組む事業を NPO 等との協働を行うまたは自ら実施する企業 20 社</p>	<p>2024 年 3 月末</p>	<p>スケジュール上、まだ実行できていないが、これまでの活動で地域の事業者 112 団体に向けてとったアンケートから見える地域課題では、「経済」「文化・環境」「教育」「雇用」「治安・安全」「医療・介護・福祉」いずれの各分野でも課題感人口減少・高齢化による担い手不足・人口の流出に危機感を覚える回答が多くみられており、これから地域課題解決への取り組みに対して成果を出していくためには、人材確保、人材育成の他、資金的支援を求める声が企業・民間非営利組織ともに割合が高かった。</p> <p>参考資料／別添「飛騨地域の公的制度のスキマと官民一体での支援制度を考える」</p>
関係人口	<p>1 ホームページ月間 PV 数</p> <p>2 公式 SNS ページのフォロワー数</p> <p>3 視察者数</p>	<p>1 月間サイト PV : 100 人</p> <p>2 フォロワー数 : 1,000 人</p> <p>3 視察者数 : 50 人</p>	<p>2024 年 3 月末</p>	<p>コミュニティ財団のホームページを作成する前の注目度・周知状況を測るため、2022 年 1 月にコミュニティ財団設立事業の紹介ページを設立母体になるまちづくりスポットのホームページ内に設置した。</p> <p>http://machispo.org/hidakomyu/</p> <p>これまでサイト PV178 人・訪問人数 151 人（2022 年 1 月~9 月）となっている。月平均では 20PV・16 人である。</p> <p>一方で、白書製作プロジェクト</p> <p>http://machispo.org/crowdfundinghakusyo/</p> <p>PV 数は 177PV・訪問人数 143 人（8/13-9/25）になっていて、キャンペーンの方が効果的かつ周知をはかる手段にもなることがわかった。サイトページに相互リンクなどをはるこ</p>

				とでキャンペーンと連動させてコミュニティ財団設立のプロジェクト全体の動きを可視化していくことを進めていきたい。
市民・企業・団体	<ul style="list-style-type: none"> 1 初めて寄付をする個人数 2 企業・団体からの寄付件数 3 寄付の継続意欲（寄付者へのアンケート個人・法人） 	<ul style="list-style-type: none"> 1 初めての寄付者：50人 2 企業・団体からの寄付件数：30社 3 継続意欲「来年以降も寄付を続ける」＋「来年以降も寄付を続ける予定」50% 	2024年3月末	このたびの白書製作プロジェクトのクラウドファンディングを通して応援者と直接コミュニケーションを取れたことで、初めてクラウドファンディングで支援するという市民が多かった。現在、10月で支援者へのお礼を送る際に初めての支援（寄付）かどうかをアンケートで取っていく。また、基金についても今後クラウドファンディングと連動させて寄付者を募っていく。同様に寄付者アンケートを定着させて、初めての寄付や継続意欲も問う予定である。



2 アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」（※任意）

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
コミュニティ財団立ち上げを通し、市民の地域課題への関心が高まっているか。	概ね達成できる見込みである	市民の地域課題への関心が高まっているかは賛同者1,000人、個人の地域課題への関心が高まっているかではコミュニティ財団の周知度を測っている。
コミュニティ財団立ち上げを通し、個人の地域課題への関心が高まっているか。	概ね達成できる見込みである	これまで実施してきた「ひだのスキマ研究会」ではテーマごとに関心事項は違うため、地域課題と一括りにするのではなく、「子育て支援」「不登校問題」など自分事に近いテーマ設定を設けて参加を促してきた。
コミュニティ財団立ち上げを通し、団体・企業の地域課題への関心が高まっている。	概ね達成できる見込みである	これまで事業者向けに地域課題のアンケートを2022年4月1日～5月31日に向けて取り112団体から回答が寄せられた。 商工会議所・商工会等の事業者支援組織の理解もいただき、アンケートを通してプロジェクトの周知にもつながったため、これからのアウトカム達成の期待ができる。

<p>飛騨地域のまちづくりに関心をもつ関係人口が増えている。</p>	<p>達成は不透明である。</p>	<p>コミュニティ財団が法人として設立されておらず、ホームページの開設は出来ていないため不透明としたが、個人の関心あるテーマの勉強会やクラウドファンディングのプロジェクトを発信することで関係人口からの支援やPV数・訪問者数があがることもわかった。ホームページも開設の際には、訪問者の傾向や地域や属性のターゲット設定が効果的に進めることが出来るよう開設までに準備を進める。</p>
<p>市民・地域の企業・団体の助け合いの寄付文化が醸成されているか。</p>	<p>概ね達成できる見込みである</p>	<p>白書製作プロジェクトでも多くの支援を頂けた。これまでの支援者にあらためてこの後白書が完成し発送する際に、クラウドファンディングの利用ははじめてかなど助け合いの寄付文化醸成に向けたアンケートも取る予定である。同様に様々な基金の設置等を通してアウトカム達成を測っていきたい。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	<p>短期アウトカム捉える市民や関係人口に向けた変化は、これまで実施してきたスキマ研究会や白書製作のプロセスで設立に向けた、賛同者・周知度を測るネットワークもできた。初めてクラウドファンディングで寄付をしたという市民もいて、達成に向けて着実につながっている。</p> <p>一方で企業・団体に向けた賛同・支援の説明機会はまだまだであり、白書発行後に本格的に周知活動を進めていく。</p>

B) 事業の改善状況の評価

1 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	事業に対する関係団体や支援者の認識に変化はあったか	変化を作り出すことが出来ている	白書製作を通して直接お声がけした市民や関係人口、関係団体からも好意的なメッセージをいただけ事業への関心を感じている。
実施状況の適切性	スキマ白書作成のプロセスにおいて多様な関係者の関心のある社会課題を集めることができているか	概ね集めることが出来ている	子育て、教育、引きこもり・不登校、起業支援、人口減少に担い手のスキマ時間活用など市民、地域外の関係人口も含め接点を作る機会を作ってきた。2022年10月スキマ白書発刊後はクラウドファンディングで支援いただいた150名を超える支援者も含めて賛同を集めていく機会を作っていく。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	今後の寄付・助成プログラムの企画・運営における課題・改善点は何か	概ね共有できている (プログラム作成に関わる所轄庁との連携)	これまでの寄付・助成プログラムを作るにあたり関係所轄庁への確認に時間を要してきた。税制優遇となるプログラムか、クラウドファンディングを実行する際に購入型であるか、寄付型のプログラムであるかプロセスをまとめて作成時に迅速な作成をできるようにする必要がある。
組織基盤の強化・環境整備	事業の運営体制を強化するために実施する人材育成で重視することは何か	概ね把握できている (資金調達力の強化)	基金やクラウドファンディング各プロジェクトを作った後の資金調達計画を整理する必要がある。集まった後の支援者分析等もおこない、より効果的で伝えることが出来ていない市民・地域外の関係人口にも伝えていけるようにする。支援者へのメールマガジンの整備やお礼状なども再考したい。
組織基盤の強化・環境整備	今後、事業実施において新たに関係構築が必要になるのはどのような人や組織か、また、どのように連携を構築していくか	把握できている (地域金融機関)	白書の製作プロジェクトを通し、地域内の支援者からは一定数地域電子通貨を利用した支援がしたいという声があった。これらの支援者層を広げていくためには、地域金融機関との連携は外すことができない。クラウドファンディング終了後に支援状況をまとめ連携構築のための協議機会を金融機関とつくりたい。

2 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

ひだのスキマ研究会など、テーマに関心ある市民の参加から、賛同者を集める段階を一步進めるために、この期間 2022 年の 8 月から 9 月に「ひだのスキマ白書製作プロジェクト」を実行しクラウドファンディングを達成できたことは、一過性のキャンペーンに留まらず広く市民にもコミュニティ財団設立の動きを知ってもらう大きな変化を与えることができた。とくに地域の新聞などフリーペーパーにも多く取り上げてもらえ、コンテンツも飛騨地域の首長対談など地域内の誰もが知る方々の協力をいただけたことが大きい。

3 事前評価時には想定していなかった成果

事前評価時の市民への事前アンケートでは、コミュニティ財団をほぼ知らないということがわかり、さらに必要性は 100% 感じるものの、寄付や応援をするには地域課題を把握し、洗い出された課題を明示するべきという声があった。これを実現するために課題明示の白書製作に注力した事業を遂行してきたが、結果コミュニティ財団の周知にもつながってきた時期にもなったと思う。あらためて白書製作後には周知を図りつつ賛同集めに注力していきたい。

また事前評価時に反映できていなかった白書製作にかかる印刷費・デザイン費を 65 万円設定しクラウドファンディングをおこなったが、達成金額を 110% 以上達成と大きく上回るすることができた。ここからも関心をもっていただけることがわかる結果になっている。



4 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている



短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>新型コロナウイルスとの共生もまだ続き、視察受け入れおよび実績はまだ法人設立も出来ていないため、不透明である。設立時期で活動実績も少ない 2024 年 3 月までの関係人口創出に寄与するフォロワー数と PV から測るべきか。</p>

5 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

2023 年 4 月には、賛同者を集めてコミュニティ財団設立を目指す活動に段階が進む。時期は冬になるため、インターネットなどでも賛同者名簿を可視化させるような良いツール、出資金集めの実行方法やそのスケジュールなど他地域の方法も機会があれば見えると嬉しいです。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

The screenshot shows a crowdfunding page on the website readyfor.jp. The browser address bar displays 'readyfor.jp/projects/100787/comments'. The page header includes the 'READYFOR' logo, a search bar with the placeholder text 'キーワードでさがす', and navigation links for 'クラウドファンディングとは', 'はじめる', 'さがす', and a 'ログイン・登録' button.

The main content area features a title: '大人も子どもも支え合える地域を目指して、飛驒の今を徹底解剖する'. Below the title is the organization name: '認定NPO法人まちづくりスポット 本間あかり'. The project image shows a child peeking from behind two vertical wooden posts, with a sunburst icon and an open book icon. A red banner in the top left corner of the image says '達成!' (Achieved!).

On the right side, the funding progress is shown: '支援総額 732,000円' (Total amount raised) and '目標金額 650,000円' (Target amount). A red progress bar indicates '112%' completion. Below this, it shows '支援者 残り 143人' (Remaining supporters) and '61時間 21分 31秒' (61 hours, 21 minutes, 31 seconds remaining). A 'フォローする' (Follow) button is visible.

At the bottom, there is a section for '応援コメント' (Supporting comments). A comment from 'くりはらゆうこ' is shown, dated '11時間前' (11 hours ago), with the text: '白書の内容に興味があります！届くの楽しみに' (I'm interested in the content of the white paper! Looking forward to receiving it).

▲ひだスキマ白書クラウドファンディング（READYFORを活用）（9月28日時点）



▲ひだスキマ白書クラウドファンディングの取材対応



▲2022年9月22日第10回ひだのスキマ研究会「スキマ時間の活用術-ちょっとイイコトの始め方-」